

智顓著作における「大経」と「大論」

前 川 健 一

1 問題の所在

天台宗では、『大般涅槃経』を「大経」、『大智度論』を「大論」という通称で呼ぶことが広く行われている。他の宗派では、このような略し方は一般的ではなく、天台宗においても湛然以後、定着したものと思われる。智顓に帰せられる著作を調査してみると、「大経」「大論」という略称の使用頻度は著作ごとに大きく異なり、全く使用されない著作もある。このような偏りが意味するものが何かを考察してみたい。

なお、智顓の多くの著作は、『維摩経玄疏』など彼自身が執筆したことが確実な数篇を除いて、灌頂をはじめとする弟子たちが筆録・編纂したものである(佐藤 [1961])が、以下、特に断りのない限り、一括して「智顓著作」と称する。

2 智顓著作における「大経」「大論」の分布

智顓著作では、『大般涅槃経』は「大経」以外にも「涅槃経」「大涅槃経」など数種の呼称がある。『大智度論』についても、「大論」以外に「大智論」「智論」「釈論」などの呼称が見られる。SATおよびCBETAを利用して、著作ごとに呼称の用例を検出し、分布を一覧にしたものが、表1である(スペースの関係で以下の各表はすべて二つの表に分けてある)。なお、「18 (19)」などの表記は、「大経」という文字列が検出されるのは19箇所であるが、そ

のうち『大般涅槃經』を意味しているのは18箇所であることを意味する。

『大般涅槃經』『大智度論』が一切引用されていないもの(たとえば『観心論』)を除き、「大経」「大論」の使用状況にもとづいて、以下の8つのカテゴリーに分けて示した。

- A : 「大経」 > 他の呼称、「大論」 > 他の呼称
- B : 「大経」 > 他の呼称、「大論」 < 他の呼称
- C : 「大経」 < 他の呼称、「大論」 < 他の呼称
- D : 「大経」 > 他の呼称、「大論」 0 < 他の呼称
- E : 「大経」 0 < 他の呼称、「大論」 0 < 他の呼称
- F : 「大経」 0 < 他の呼称、「大論」 0 < 「摩訶衍論」
- G : 『大般涅槃經』引用ナシ、「大論」 0 < 他の呼称
- H : 「大経」 0 < 他の呼称、『大智度論』引用ナシ

3 調査結果の分析

表1に示された分布の偏りをどのように考えるべきであろうか。

ここで注目されるのは、智顛が自ら執筆したと考えられる『維摩経玄疏』『四教義』『三観義』、大部分が智顛の手になると考えられる『維摩経文疏』に見られる傾向性である。前3者はEカテゴリーであり、「大経」「大論」という呼称を用いていない。『維摩経文疏』はCカテゴリーであり、「大経」「大論」という呼称は用いているが、その数は極めて少ない。さらにこれら4編は、『大般涅槃經』に対し「大涅槃經」という呼称を用い、『大智度論』に対し「大智論」という呼称を用いている点でも、共通している。

これに対し、「大経」という呼称が見られる著作では、「大涅槃經」という呼称の使用は極めて少なく、「大論」という呼称が見られる著作では、「大論」以外の呼称として「釈論」の使用がかなり多い。一方、「大経」「大論」の呼称を使わない著作のうち『修習止観坐禅法要(小止観)』『釈禅波羅蜜次第法門(次第禅門)』は、『大智度論』に対し「摩訶衍論」という呼称を使用して

いる点で特異である。

灌頂が著わした『天台智者大師別伝』で挙げられている智顛の著作は、以下の9篇であり、これらは智顛の著作ないし講説として確実性が高いものとしてよい。

『浄名経疏 (= 『維摩経玄疏』『維摩経文疏』)

『覚意三昧』

『六妙門』

『法界次第章』

『小止観』

『法華三昧行法』

『次第禅門』

『法華玄義』

『円頓止観』 (= 『摩訶止観』)

これらのうち、『大般涅槃経』『大智度論』の引用がない『法華三昧行法』と、灌頂が筆録・編纂した『法華玄義』『摩訶止観』を除くと、6篇のうち『維摩経文疏』以外の5篇では、「大経」「大論」の使用がないことになる。『維摩経文疏』は智顛の最後の著作であるから、同書における「大経」「大疏」の使用箇所が後世の付加でない限り、智顛が「大経」「大論」という呼称を使用したのは、最晩年になってからということになる。

同時代の仏教者と比較してみると、慧遠は「大経」「大論」を使用しておらず、上述の確実性の高い智顛著作の傾向性に近い（「大智論」の呼称が使われている点でも共通性がある。表2-1・2参照）。一方、吉蔵の方は「大経」「大論」を使用しているが、智顛著作と同様、著作によって偏りがある。智顛著作と同様に分類したのが、表3-1・2であるが、智顛著作に見られないパターンとして、下記のC2・D2・E2を設けている。

C2 : 「大経」 < 他の呼称, 「大論」 > 他の呼称

D2 : 「大経」 > 他の呼称, 「大論」 0 < 他の呼称

E2 : 「大経」 0 < 他の呼称, 「大論」 < 他の呼称

吉蔵の著作は著作年次が不明なものが多いが、大体の流れは以下のようになる(平井 [1976]) 参照)。

『二諦義』: 『法華玄論』より前

『法華玄論』: 589年～597年の会稽嘉吉寺在住時

『法華義疏』: 『法華玄論』より後

『大品経義疏』: 595年

『三論玄義』『勝鬘宝窟』『華嚴経遊意』: 597年～599年の揚州慧日道場在住時

『浄名玄論』: 599年、長安日嚴寺在住直後

『維摩経略疏』: 604年か

『維摩経義疏』: 『維摩経略疏』より後

『中観論疏』『十二門論疏』『百論疏』: 608年完成

また、『法華経関連』の注釈書は、『法華玄論』『法華義疏』『法華遊意』『法華統略』『法華論疏』の順と考えられている(菅野 [1994] 参照)。

以上をふまえ、表3を見てみると、吉蔵において「大経」「大論」という呼称が頻用されるのは、比較的初期の著作であり、晩年になるにつれて、「大経」「大論」という呼称は減っていくように見える。また、『大智度論』に対しては、「大論」以外の呼称について、「釈論」「大智論」から「智度論」へと推移しているように思われる。

智顛著作のうち灌頂(561～632)によって智顛の死後まとめられたものには、吉蔵の著作の影響があることが指摘されている(平井 [1985]) が、本稿で問題にしている「大経」「大論」の使用については、直接の影響がないように思われる。たとえば、『法華文句』については吉蔵の『法華玄論』をふまえた記述があることが指摘されているが、それらのうち両書で共通して「大経」の呼称を使用しているのは3箇所過ぎない(表5参照)。

一方、灌頂自身の著作を見てみると、意外にも、「大経」「大論」の使用例はそれほど多くなく(表4参照)、灌頂が自らまとめた智顛著作に意図的に「大経」「大論」という呼称を使用したとも考えにくい。

吉蔵における使用例から考えると、「大経」「大論」は隋代(589年～618年)の初期に用いられた呼称である。この観点からすると、陳代の禎明元年(587)の講説に基づく『法華文句』、隋代の開皇13年(593)頃の講説に基づく『法華玄義』、開皇14年(594)の講説に基づく『摩訶止観』に於いて「大経」「大論」が頻出するのは矛盾しない。吉蔵の使用例に照らしてみれば、これらの著作で『大智度論』を指す呼称として「大論」以外ではもっぱら「釈論」が用いられていることも、時期的に対応している。

もっとも、これらの著作(いわゆる「三大部」)のもととなった講説の後、開皇15年(595)以後、智顓の死(開皇17<597)まで、彼自身によって執筆された『三観義』『四教義』『維摩経玄疏』『維摩経文疏』などでは、すでに述べたとおり、「大経」「大論」の使用は皆無ないし僅少である。

4 むすび

智顓著作における「大経」「大論」の使用例の分析から、智顓自身の著作として確実性が高いものでは、最晩年『維摩経文疏』を除いて「大経」「大論」という呼称が使用されていないことを明らかにした。また、吉蔵著作との比較から、「大経」「大論」という呼称が用いられている著作は、智顓死後かなり早い時期に成立したことが推定される。

「大経」「大論」が大量に使用されている法華三大部を重視した湛然は、それが智顓自身の言葉遣いとはいささか異なることを意識せず、自らも頻用し、さらには『維摩経文疏』を再編集した『維摩経略疏』では『大般涅槃経』『大智度論』への言及のほとんどを「大経」「大論」へと統一している(表1・表6参照)。こうして、天台宗では、『大般涅槃経』を「大経」、『大智度論』を「大論」と称することが定着したと考えられる。

(二次文献)

菅野博史 [1994] 中国法華思想の研究。東京・春秋社。

佐藤哲英 [1961] 天台大師の研究：智顓の著作に関する基礎的研究。京都・百華苑。

平井俊榮 [1976] 中国般若思想史の研究：吉蔵と三論学派。東京・春秋社。

平井俊榮 [1985] 法華文句の成立に関する研究。東京・春秋社。

表 1-1 智顛著作における「大経」

分類	著作名	大経	涅槃経	大涅槃経	大般涅槃経	涅槃云	大涅槃云
A	仁王護国般若経疏	22	1	0	0	0	0
	観音玄義	21	0	0	0	0	0
	菩薩戒義疏	15	0	0	0	0	0
	四念処	32 (33)	0	0	0	1	0
	摩訶止観	82	0	0	0	4	0
B	金剛般若経疏	4	0	0	0	0	0
	観音義疏	12	0	0	0	2	0
	金光明経玄義	7	0	0	0	2	0
	法華玄義	109	4	1	0	17	2
	法華文句	39	0	0	0	5	0
	禅門章	11	0	0	0	1	0
C	仏説観無量寿経疏	1	3	0	0	2	0
	維摩経文疏	6 (7)	20	82	1	9	6
	(維摩経略疏)	113	0	0	0	10	0
D	請観音経疏	3	0	0	0	2	0
	金光明経文句	16	0	0	0	4	0
E	維摩経玄疏	0	36	31	0	0	2
	四教義	0 (3)	70 (71)	25 (26)	0	1	1
	三観義	0	11	5	0	0	1
	法界次第初門	0	0	1	0	0	0
F	修習止観坐禅法要	0 (2)	3	0	0	0	0
	釈禅波羅蜜次第法門	0	8	0	0	0	0
G	釈摩訶般若波羅蜜経 覚意三昧	0	0	0	0	0	0
H	六妙法門	0	1	0	0	0	0
	浄土十疑論	0	1	0	0	0	0
参考	観心論	0	0	0	0	0	0
	国清百録	0	0 (1)	0	0	0	0

表1-2 智顛著作における「大論」

分類	著作名	大論	大智度論	智度論	大智論	智論	釈論	摩訶衍論	智度云
A	仁王護国般若經疏	18 (19)	0	1	18 (9)	3	0	0	
	観音玄義	10	0	0	0 (1)	5	0	0	
	菩薩戒義疏	14	0	0	0	2	0	0	
	四念処	29	0	0	0	5	0	0	
	摩訶止観	67	0	1	0	0	34	0	0
B	金剛般若經疏	2	0	0	0	0	3	0	0
	観音義疏	3	0	0	0	0	7	0	0
	金光明經玄義	1	0	0	0	0	3	0	0
	法華玄義	30	1	1	4	0	51	0	1
	法華文句	21 (22)	0	0	0 (1)	45	0	0	
	禪門章	4	0	0	1	0	7	0	0
C	仏説観無量寿經疏	2	0	1	0	0	13	0	0
	維摩經文疏	3 (4)	18	18	59	0	13	0	0
	(維摩經略疏)	92	0	0	0	7	9	0	0
D	請観音經疏	0	0	0	0	0	2	0	0
	金光明經文句	0	0	0	0 (1)	25	0	0	
E	維摩經玄疏	0 (2)	5	15	33	0	0	0	0
	四教義	0	18 (19)	24 (25)	15 (16)	1 (2)	1	0	0
	三観義	0	0	4	11	0	0	0	0
	法界次第初門	0	12	1	0	0	0	0	0
F	修習止観坐禅法要	0	0	0	0	0	2	2	0
	釈禅波羅蜜次第法門	0	0	0	0	0	8	25	0
G	釈摩訶般若波羅蜜經覺意三昧	0	0	0	0	0	4	0	0
H	六妙法門	0	0	0	0	0	0	0	0
	浄土十疑論	0	0	0	0	0	0	0	0
参考	観心論	0	0	0	0	0	0	0 (1)	0
	国清百録	0 (2)	0 (1)	0	0	0 (3)	0	0	0

表 2-1 慧遠著作における「大經」

著作名	大經	涅槃經	大涅槃經	大般涅槃經	涅槃云	大涅槃云
無量壽命經義疏	0	1	1	0	1	0
觀無量壽經義疏	0 (14)	3	0	0	3	0
大般涅槃經義記	0 (5)	34 (64)	25	1	8	0
維摩義記	0	14	0	0	17	0
大乘起信論義疏	3	4	0	0	3	0
大乘義章	0	93	1	0	104 (105)	0

表 2-2 慧遠著作における「大論」

著作名	大論	大智度論	智度論	大智論	智論	積論	摩訶衍論	智度云
無量壽命經義疏	0	0	0	1	0	0	0	0
觀無量壽經義疏	0	0	0	0	0	0	0	0
大般涅槃經義記	0 (1)	0	3	5	0	0	0	0
維摩義記	0 (1)	0	0	4	0	0	0	0
大乘起信論義疏	0	0	0	4	0	0	0	0
大乘義章	0 (36)	0	1 (5)	77	0 (3)	1	0	0

表 4-1 灌頂著作における「大經」

著作名	大經	涅槃經	大涅槃經	大般涅槃經	涅槃云	大涅槃云
大般涅槃經玄義	1	0	0	0	0	0 (3)
大般涅槃經疏	1 (2)	4	1 (3)	0	0 (9)	0 (3)
觀心論疏	0	6	0	0	1	0
隨天台智者大師別伝	0 (36)	0	0	0	0	0

表 4-2 灌頂著作における「大論」

著作名	大論	大智度論	智度論	大智論	智論	積論	摩訶衍論	智度云
大般涅槃經玄義	2	0	0	0	0	4	0	2
大般涅槃經疏	7	0	0	2	2	36	0	0
觀心論疏	5	0	0	0	0	11	0	0
隨天台智者大師別伝	0	1	0	0	0	1	0	0

表5 『法華文句』『法華玄論』における「大經」

『法華文句』(大正34)	『法華玄論』(大正34)
大經云彗星(48c3)	大經譬之彗星(400c29-401a1)
大經有三文(102b25)	大經有三文処文(429b26-27)、問。大經何故举三文
大經超前九劫皆成方便(127b21-22)	又大經云我聞半偈超弥勒九劫先得成仏(378a2-3)、大經明超九劫為權者則法華為実涅槃為權

表6-1 湛然著作における「大經」

著作名	大經	涅槃經	大涅槃經	大般涅槃經	涅槃云	大涅槃云
法華玄義釈籤	179	3	0	0	5	0
法華文句記	108	2	1	0	3	0
止観輔行伝弘決	286	1	0	0	2	0
止観義例	4	0	0	1	0	0
止観大意	0	2	0	0	2	0
金剛鉾	1	2	0	0	0	0

表6-2 湛然著作における「大論」

著作名	大論	大智度論	智度論	大智論	智論	釈論	摩訶衍論	智度云
法華玄義釈籤	109	0	0	1	2	19	0	0
法華文句記	89	0	0	1	5	15	0	0
止観輔行伝弘決	366	1	0	0	6	17	0	0
止観義例	0	0	0	0	1	0	0	0
止観大意	0	0	0	0	0	0	0	0
金剛鉾	1	1	0	0	0	0	0	0

表 3-1 吉蔵著作における「大経」

分類	著作名	大経	涅槃経	大涅槃経	大般涅槃経	涅槃云	大涅槃云
A	大品経義疏	42 (43)	7	1	0	3	0
	弥勒経遊意	16	1	0	0	0	0
	維摩経略疏	30	1	0	0	0	0
	観無量寿経義疏	6	1	0	0	0	0
	涅槃経遊意	5	1 (3)	0	0	0	0
B	金剛般若疏	16	2	1	0	1	0
C	法華義疏	3 (4)	48	0	0	20	0
	華嚴遊意	2	4	0	0	1	0
	中観論疏	2	42	2	0	30	0
	大乘玄論	17 (21)	20	1	0	15	0
C2	二諦義	7 (8)	28	0	0	3	0
D	大品遊意	3	1	0	0	0	0
	浄名玄論	6 (7)	3	0	0	11	0
	金光明経疏	3	0	0	0	0	0
D2	法華玄論	83	3	0	0	3 (5)	0
E	法華統略	0	8	0	0	18	0
	勝鬘宝窟	0	22	0	0	26	0
	法華論疏	0	3	0	1	2	0
	十二門論疏	0 (1)	9	0	0	11 (12)	0
	三論玄義	0 (1)	4	0	0	2	0
E2	仁王般若経疏	0	6	0	0	7	0
	法華遊意	0 (1)	11	0	0	8	0
	維摩経義疏	0	10	0	0	4	0
	百論疏	0 (6)	16	0	0	11	0
F	無量寿経義疏	0	1	0	0	0	0

